

編集後記

今月の小児腎・泌尿器疾患に関する特集では、各種腎疾患についての最新の知見を、第一線でご活躍中の臨床医の先生方にさまざまな側面からご紹介いただきました。

岡部先生には小児腎不全の国内有病数や腎移植の現状について総論的に解説いただき、小児に対する腎移植の技術的側面や問題点をご説明いただきました。また移植に関する最新のトピックとして、小児ドナーからの献腎が小児へ優先的に移植されるようなレシピエント選択基準の変更について解説いただきました。張田先生には小児腎疾患を対象とした次世代シーケンス技術による遺伝子検査法について解説いただきました。遺伝性疾患の原因が判明することにより、患者さんやご家族の納得感が得られやすくなることや遺伝カウンセリングが可能となる点、他臓器への影響を予測できることといった利点がある一方、解析手法上の限界や変異・多型が病態の真の原因であるかについて判断が難しいこともある点などについてご解説いただきました。宮坂先生には小児泌尿器疾患の画像診断法について、各種検査の利点・欠点、適応を概説いただきました。

また各論として、奥田先生には非典型溶血性尿毒

症候群やC3腎症といった補体介在性腎疾患について、亀井先生には小児の急性腎障害の最新の診療ガイドラインについて、南川先生には遺伝性尿細管機能異常症の最新トピックスについて、浅野先生には分子標的薬であるリツキシマブの難治性ネフローゼ症候群への適応時の注意点について、永井先生にはIgA腎症、紫斑病性腎炎への治療戦略について、ご専門の立場からそれぞれ解説いただきました。

特集以外では、柏木先生に具体的な急性脳症のモデルケースを提示いただいた上で、小児急性脳症診療ガイドラインを実臨床において活用するうえでの課題について詳細に解説いただきました。また奥村先生には急性弛緩性麻痺が本年5月より五類感染症として感染症法に基づく全数把握対象となった経緯について解説いただき、新田先生には小児難聴診療の地域医療の現状と問題点についてご提起いただきました。

今回も、多くの専門領域の先生方にご協力いただきました。この場をお借りして深謝いたします。小児の腎疾患に関する幅広い最新の知識が、日々の診療に活用されることを期待しております。

(高橋 孝雄)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第59巻第10号 9月号
2018年9月1日発行（毎月1回1日発行）
定価（本体2,600円＋税）
年間購読料金
定価（本体41,000円＋税）
〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14
Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕
Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕
Fax 03(3813)0288
<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-3513-6969、FAX：03-3513-6979、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。